

びがしゅわ

豊かな自然みんなで
拓く町 伸びる町

▶東由利農協職員のえびす俵奉納



1989 — 2
No. 407

平成元年2月1日発行・毎月1日
編集・発行 / 秋田県東由利町役場総務課

- 消防出初式
- 担い手農業者交流会
- ふるさと創生で本町にも一億円
- 第4回雪ん子ふれ合いの集い
- コミュニティで地域に潤いを生活に充実感を

▶新町自治会のえびす俵奉納



▲老方地区の伝統的な冬祭り「御嶽神社ぼん天奉納」が一月五日、「ジョヤサ、ジョヤサ」の掛け声も勇ましくにぎやかに行われました。この日は五本のぼん天やえびす俵がお目見えし、御嶽神社(寺田)に無事奉納を終えました。(写真・下通自治会と子供会)



大行天皇の崩御をいたみ、弔意記帳する町民

大行 天皇 崩御で町民多数が弔意記帳

大行天皇が一月七日、八十七歳で生涯を閉じられました。本町民にとっても悲しいできごとであり、ここに、謹んで崩御をいたみ、ごめい福をお祈り申し上げます。

亡き天皇陛下へ弔意を表すため、記帳所は同十二日まで六日間設けました。町では一月七日午後から、役場窓口に独自で「天皇陛下崩御弔意記帳所」を設置しました。記帳所は同十二日まで六日間設けましたが、この間に多数の町民が訪れ、大行天皇のご逝去をいたみながら記名していました。

記帳簿は一月十七日秋田県庁に届け、宮内庁への捧呈を県に依頼。県は同二十日、全県の記帳簿を宮内庁に一括捧呈しました。

恒例ではありますが、 いつもも新たな気持ちです。 消防出初式

新春恒例の消防出初式が一月六日、健康増進センターで消防団員ら二百人余りが出席して行われました。

「無火災祈願」の葉玉が割られたあと、今年には皇太子殿下から励ましのメッセージが届

き、畠山町長が代読しました。

服装点検、参加人数の報告のあと、あいさつに立った畠山町長は「昨年は林野を含む三件の火災が発生し残念。消防防災無線を全車に配備するなど全県一の機能を誇る消防団となった。後継者問題など課題も多いが、町民の生命と財産を守るため今後ともご協力をお願いします」と述べました。

「お願いします」と述べました。

これに対し佐藤力団長から「消防防災無線の設置など町当局の理解ある対応に感謝する。住民の信頼と期待に応えられるよう、団員の今後一層の努力をお願いします」と訓示がありました。

式では長年消防団員として功績のあった団員や模範団員などに表彰状、退職団員や消防用地協力者に感謝状が贈られました。

- 【県知事表彰】
 二十五年度勤続章▼莊野洋一（下小路）
 【県消防協会長表彰】
 功労章▼莊野洋一（下小路）
 勤続章▼伊東茂夫（岩館）三浦良男（田代）長谷山喜悦（石高）畠山芳一（宇戸坂）阿曾寛二（同）畠山茂（下通）畠山金悦（寺田）小野源一（湯出野）阿部昌史（横渡）阿部盛喜（十二の前）遠藤謙一（新処）小松君悦（十二の前）千葉源治（桂台）
 【町長表彰】
 模範団員▼畠山安弘（上通）渡辺健二（向田）畑山悦也（館合新田）小松幸男（山崎）遠藤信弘（宇戸坂）村上栄志（新町）千葉源治（桂台）小笠原均（蔵新田）遠藤基（小倉）鈴木和雄（横渡）阿部讓治（大琴）長谷山順一（舟木）佐々木堅一（大琴）
 【消防団長表彰】
 甲種精勤章▼千葉長一郎（家の下）佐藤貴志（八日町）小松仁（家の下）高橋春雄（松柴）小野源行（上里）鈴木将（袖山）
 乙種精勤章▼佐藤賢（泡の淵）佐藤宏（時雨山）佐藤太智雄（向田）八島浩（黒淵）長谷山肇（石高）莊野和浩（松柴）長谷山満（山崎）畠山正光（下通）遠藤富作（祝沢）



今年一年の無火災を祈願した消防出初式



遠藤寿幸(同)

【町長感謝状】

退職団員▼畠山俊雄(寺田)阿部

隆一(蔵新田)鈴木博(大琴)阿

部敏夫(岩館)阿部義夫(野田)

大庭信弥(舟木)畠山与一(地下

の沢)佐藤一二(田代)小松久安

(松柴)阿部弥松(小倉)石綿工

(横渡)小野修治(横渡)小野照

男(大琴)

消防用地協力者▼小松慎一(高戸

屋)千葉康平(黒沢)小野庄治

(時雨山)小松忠蔵(山崎)

【本荘地区消防事務組合管理者表

彰) 小野ミヨ(五海保)

消防機能大幅にアップ 全消防車に無線機設置・県内初

町では町内の消防車(自動車ポンプ四台、積載車十六台)全車に、このほど消防防災専用の無線機を設置しました。これにより緊急時、消防署、役場、消防車が無線で連絡できるようになり、消防防災活動が今後スムーズでより効果的に行われることになりました。消防車への無線機



消防防災専用無線機を装備した消防車

設置は、消防団レベルでは県内初で、県内一の機能を持つ消防団として関係者は誇りを高くしています。この無線機は、これまで役場が防災行政用として使っていた一五〇メガヘルツの無線機で、このほど四〇〇メガヘルツに更新したことに伴い、周波数を微調整し消防車に設置したものです。

昭和の幕が降ろされ平成の時代を迎え、いま静かに自らが生きぬいてきた昭和を振り返り、ひとしおの感慨に耽ける。昭和に生れ、昭和と共に生きぬき、昭和のために身を挺す。世は平成の時代に代わろうとも、「私の昭和」は末長く生き続けることであろう。

押さえがたく、再建復興日本の礎となることを決意し警察官となった。就任一ヵ月後の昭和二十二年八月、人間天皇として全国をご巡幸の陛下を秋田駅でお迎えした。軍隊なきあとの国の守り、国の秩序維持を一身に託された。陛下の警察官として、その誇りを胸に

宮庭で、陛下から直接お言葉を賜わる機会に恵まれた。「民生安定のために、努力されるよう望みます」。短いお言葉の中に、警察官に対する、並々ならぬ期待と信頼に満ちた温かいお言葉の響きに感激し、身を震わせたものである。時に二十九歳であった。

際には、両陛下のお車のすぐ後ろに位置する「護衛車」に警察本部長と共に乗車して、直接に両陛下のご身辺をお護りする大任に浴した。両陛下のお成りになる先々まで、その楯となって身を挺して大任を果し得た栄誉は、私の生涯の最高の誇りとして忘れることがで

の親和を第一義としながらも、一系乱れぬ統制と秩序をもって終えることを旨としており、つがなく責任を果し、隊員とともに感激の涙を拭いたことが、つい先日のように記憶に新しい。いま平成の世を迎え、静かに当時の想い出のアルバムをひもときながら、両陛下のお側近くにお仕えできたことの喜びと光栄をかみしめている。この、またとない栄光の想い出を末長く語り継ぎたいと思う。

町長 随想

謹話 私の昭和時代と陛下

町長 畠山 亮二郎

義務教育を戦前戦中に学び、十七歳で少年消防官を拝命し、国土防衛の任にあたった。終戦は横須賀で迎えた。国を憂い、青春時代を国に捧げたわれら同僚は、海に、空に、国土防衛に殉じて逝った。空しく終戦を迎えて帰省。そのころ焦土と化した敗戦国日本の、無秩序はひどく、正義に燃える私はその純情

ご警衛の任にあたった。警察の任務を誇り高く思い、男の生き甲斐を強く感じたものであった。

昭和三十六年十月国民体育大会でご来県なされた際には、両陛下のお車配車の責任者に任せられる

また昭和五十三年十月、当時皇太子殿下であられた新しい天皇陛下が、全国育樹祭でご来県なされた際には、皇太子殿下、同妃殿下の「お列警衛隊長」の大任を命ぜ

復興。経済大国と激動の昭和「私の昭和」を振り返りつつ、謹んで世の「平成」をお祈りし筆をおく。

となり、警察大学に一年間学んだ際、昭和三十二年一月皇居内の

月、秋田農業大博覧会にご来県の

られた。ご警衛は、国民と皇室と

(平成元年一月八日謹記)

10a 当たり約700kg を収穫

基本どおりの栽培管理で冷害克服

昨年(昭和62年)は稲作が不作でした。町農業総合指導センターの最終的なまとめによると、本町の10a当たり平均収量は五・一三tで、昭和五十六年(昭和31年)以来の低収量となり、政府売渡り米は限度数量の十三万八千四百六袋に、三千四百五十四袋足りない結果となりました。

こうした不作にありながらも、町稲作研究会(工藤真市会長・会員三十八人)では会員のほとんどが平年作(五・四〇t)以上の収量を確保しました。中でも、10a当たり約七〇〇kgという驚異的な収量を確保したのは小野市朗さん(上里)で、小野さんはササニシキで六九五・五t、あきたこまちで

六六九・二tを収穫しました。昨年の冷害は、連日の低温と日照不足による活着不良で成長が遅れたことや、減数分裂期の早生種に白ふや障害不稔が発生したことなどによるとされています。しかし小野さんはこうした障害をもともせず、平年作を大幅に上回る収穫を実現させました。その背景について小野さんは、「特別な方

法を取ったわけではなく、これまで通りの栽培をしてきただけ。しいて言えば、成育に見合ったこま目な管理、特に成育過程の適切な施肥や水管理を怠らなかつたことではないか」と、基本にもとづいた栽培管理の励行を強調しています。

小野さんのこの実績は対外的にも優れ、本荘・由利管内はもちろ

増え通常の稲作管理に手が行き届かなくなっていることなども、被害を大きくした一因ではないかと

稲作研究会の小野市朗さん



「坪刈りコンクール」表彰状を手に小野市朗さん(中央)

平成元年度の転作面積 63年度と同じ 一律21.2%で配分

水田農業確立対策推進協議会が1月18日有鄰館で開かれ、平成元年度の転作等目標面積や事前売渡限度数量の配分方法などを決めました。

これによると、転作等目標面積は昭和63年度と同じ246ha、転作面積も同率の21.2%で一律に配分するなど、ほぼ63年度と同じ内容となっています。

63年度と違うところは、米需給均衡化緊急対策「開発米」の配分を、原則として転作面積で配分することにしたことや、政府売渡限度数量は基準収穫量を基に算定した収量で配分することにしたことなどです。

● 転作等目標面積及び他用途利用米の配分

	平成元年度	昭和63年度	増減
目標面積	246ha	246ha	—
転作面積	224.5ha	224.5ha	—
他用途利用米面積	21.5ha	21.5ha	—
他用途利用米数量	3,796袋	3,796袋	—

● 米需給均衡化緊急対策数量の配分

	平成元年度	昭和63年度	増減
配分数量	4,354袋	4,354袋	—袋
他用途利用米	2,535袋	1,971袋	564袋
開発米	1,819袋	2,383袋	△564袋
その他面積	10.2ha	13.5ha	△3.3ha

● 政府売渡限度数量の配分

	平成元年度	昭和63年度	増減
限度数量	138,350袋	138,350袋	—
うるち米	136,928袋	136,928袋	—
もち米	1,422袋	1,422袋	—

63年産葉たばこ1,280万円の減収

品質は増田管内一で、減反配分は無し

六十三年産葉たばこの収納結果がまとまりました。六十三年の葉たばこ生産農家は前年より六戸減の八十五戸、耕作面積は三八・二haで、10a当たり平均収量は二百六十六tと前年より五十九t減量、10a当たりの売り上げ代金でも約三万六千円の減収となりました。

このため全体の売り上げ代金は前年より千二百八十万円余り落ち込んだ、一億三千二百二十七万一千七百五円となっています。葉たばこ減収の要因は、品種が白遠州からパーレー種に代わったため栽培技術が徹底されなかつたこと、特に乾燥技術が劣悪だったことが指摘されています。しかし品質は増田管内一で、減反政策下、本町には配分されないう、喜ばしい事態となっています。



日本たばこ増田取扱所での葉たばこの買入れ作業(12/1)

講師(山崎出身) 嶽石氏がこのまきたてのあ育

担い手農業者交流会開く

町農業委員会と東嶽石氏(本町山崎出身)などを講師に、由利農協が合同で、「担い手農業者交流会」を開き、「あきたこまち」育した。これは、生産者米価三年連続の引き下げ、輸入自由化問題なるとの親として知られる県農業試験場主任 嶽石進 担い手が一堂に会し、研修、意見交換などで今後の農業経営に寄与しようとして、一月二十



60余人が参加した担い手農業者交流会

二日有鄰館で開いたものです。出稼ぎ期間中で参加人数が少ないことが心配されましたが、予想を大幅に上回る六十余人の農業者が参加しました。午前中は県農協中央会由利支所・副調査役の鈴木剛氏が「農業経営の坎どころ」と題し講話。鈴木氏は「厳しい農業事情にあり、今後最大の課題とするところは、いかにコストを下げるかである。そのためには経営的な感覚が要求されており、必要経費、利益などを把握するためにも、簿記帳は欠かせない条件」と前置きの必要性を訴えました。午後には「あきたこまち栽培管理のポイント」と題し嶽石氏が講話(概要を下記に記載)。昨年、冷害であきたこまちが被害を受けたことなどから、参加者は真剣なまなざしで聞き入っていました。また講話のあとの質疑応答では、追肥の仕方、水管理の在り方など参加者から具体的な質問が出され、嶽石氏の指導を受けました。このあと意見交換を行い、簿記帳実践者の意見、町や農協への要望などのほか、それぞれが抱える悩みや問題点などが活発に出るなど、農業者同士の交流を深め合いました。

館合地区流雪溝整備事業

下小路(八日町間)が完成

館合地区流雪溝整備事業の一部がこのほど完成しました。完成したのは下小路(八日町間、延長五百五十五・五尺で、宇戸坂の堀切橋付近から取水、受益戸数は流雪溝沿線の四十戸です。今年暖冬で、本格的な降雪は

なく、これまで利用しなくても済む状態が続いていますが、今後大雪などがあつた場合には威力が発揮されることとなります。なお、下小路(宇戸坂間の流雪溝についても継続して整備するよう、現在県に強く要望しています。



完成した流雪溝(下小路・1/26撮影)



講話する嶽石氏

あきたこまち栽培管理のポイント

あきたこまちはコシヒカリと奥羽二九二号との交配で、早生短桿化をねらった品種であり、北東北にコシヒカリ系の食味を持ち込んだ最初の品種。キヨニシキ程度でササニシキよりやや小さく、穂長はやや短くて粒数が少ない。育苗、本田での生育上の特長としては、苗のときは他品種より草丈が短く葉数が少ない。本田でも生育初期は草丈がやや短く直立的で、葉色も濃く経過するが、茎数は比較的多く取りやすい形で進んでいく。幼穂形成期までこのような傾向で進むが、その後急に草丈が伸びることが特長で、この時期に無理をすると倒伏につながる。栽培管理上の留意点としては、▽もともとが短苗であり、草丈を伸ばすような管理は慎む▽出穂期の生育目標は、必要な茎数と粒数を確保し、さらにでんぷんを効率的に生産させるように茎葉や根を健全にする▽茎数は取りやすいが、ややもすると過繁茂につながるので、有効茎歩合を高める▽穂数を増やすより一本当たりのワラの重さを増やし、穂長を大きくする方向で粒数を確保する▽多肥にすると幼穂形成期以降の伸長につながるので、もと肥は茎数を取る程度が望ましい。ただしその場合でも、幼穂形成期から出穂期まではかなりの肥料を吸収させなければならぬわけで、地力利用が大切▽登熟しやすく、登熟期に葉枯れが目立つ特長があり、これが早過ぎると根の老化につながる。この防止は水管理しかないのが現状▽単一の個別技術だけでなく寒冷地稲作技術の総合化を図ることが必要で、そのためには堆肥、深耕、排水等による地力増強、健苗をm当たり二二〜二四株程度のやや密植とする等の基本技術を励行する。また減数分裂期までの窒素施用や水管理などで生育を調整する。あきたこまちは多収品種ではないが、十ア当たり玄米重で六六〇kgの収量を目標としている。その場合の穂数はm当たり四八〇〜五〇〇本、一穂粒数は七〇〜八〇粒、m当たりの粒数は三万六千〜三万八千粒である。最後に、求められるのは売れる米づくり。刈り取り、乾燥、調整で等級を下げることのないよう、これらの適性化を図ることも大切なことである。

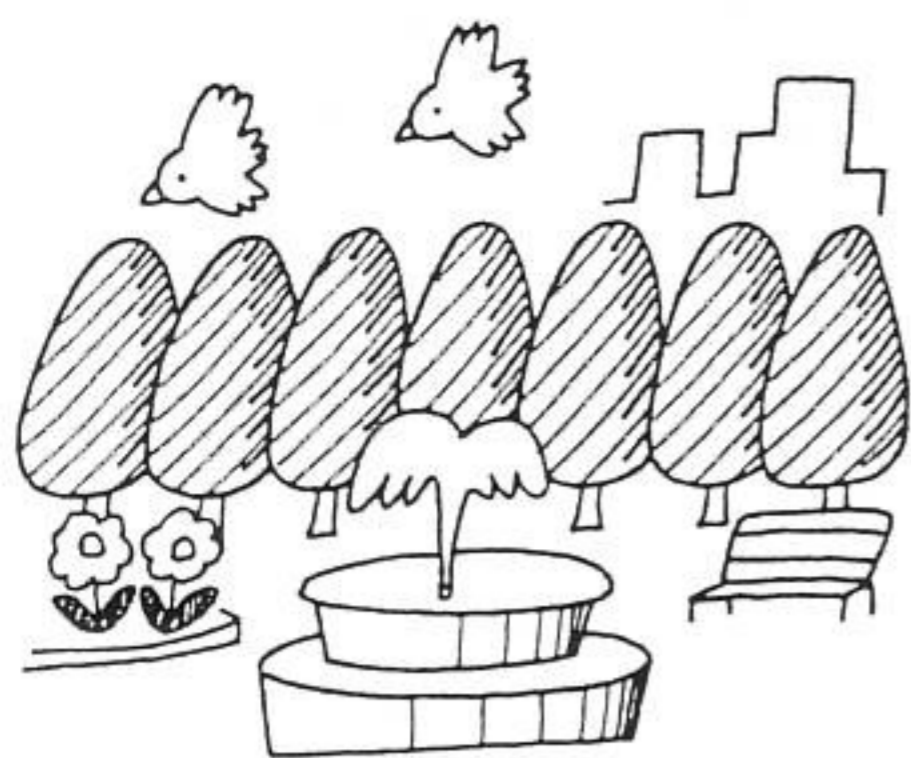
「ふるさと創生」で本町にも一億円



新聞報道等でご承知のとおり、全国市町村に一律一億円が、従来の地方交付税にプラスして配分されることになりました。これは竹下首相が提唱している「ふるさと創生」の第一弾で、人口の大小にかかわらず全市町村を同等に扱うという、これまでにない財源の配分方法です。

この事業のねらいは「自ら考え自ら実践する地域づくり」を進めることで、交付される一億円の使い道は限られていませんが、住み良い町づくりに少しでも役立つよう、町では有効な利用方法を検討しています。

このため、一億円の使い道について町民からアイデアを募集するなど、新年度の事業実施に向け現在準備を進めています。ここでは「ふるさと創生」のあらましなどについてお知らせします。



「ふるさと創生」とは

現在全国各地で、地域づくりに対するさまざまな取り組みがなされています。地域づくりといってもその内容は多種多様で、いわゆる「村おこし」などと呼ばれる産業振興や、快適な環境の整備などのほか、人づくりやイベントの実施なども地域づくりの一つです。このような、個性的で魅力的な地域づくりをするためには、地域の実情を把握し、何が特性で何が

課題であるかを認識した上で、地方自らが知恵と工夫を活かした地域づくりを進めていくことが要求されます。「ふるさと創生」とは、このような地方が行う自主的・主体的な地域づくりに対し、国が財源的に支援して行こうとする制度です。

どんな事業をするのか

ふるさと創生では、自ら考え自ら実践することをねらいとしています。このため、それぞれの地域における多様な歴史、伝統、文化、産業等を活かした、独創的・個性

財源

的な地域づくりが要求されることです。例えば、▽人材の育成▽むらおこし▽地域間交流▽国際交流▽伝統文化の伝承▽地域アイデンティティ（主体性）の確立▽イメージづくり▽地域特産品の開発▽地場産業の育成▽地域情報化の推進▽イベントの開催▽地域福祉サービス▽健康づくり▽生涯学習の推進など、内容は多種多様にわたります。

一億円は、昭和六十三年で二千万円、平成元年度で八千万円が、

国の支援体制

この事業をスムーズに進めるため、自治省が必要な情報を市町村に提供するとともに、関係省庁からも事業の実施状況に応じて情報提供、技術的援助などが得られるようになっていきます。

町民のアイデアなどから慎重に検討

町一般会計自主財源の約二〇％に当たるこの一億円。その使い道はどうあるべきか。町ではこの事業の推進を図るため、町民からアイデアを募集したほか、役場内でも各課で事業構想を立案したり、町職員有志による「ふるさと創生懇話会」（仮称）を開くなどしています。

これら町民のアイデア、町職員の構想などによると、ハード部門としては集会施設・文化施設・産

業施設などの建設や公園の整備、観光開発など、ソフト部門としては国内外研修や奨学資金制度などの人材育成、後継者対策、高齢者対策、特産品の開発、イベントの開催など、いずれも町づくりとして重要なことが打ち出されています。

町ではこれらについて現在慎重に検討していますが、決定にあたっては町の特性が活かされ、町民生活に今後大きく貢献する内容の

事業を行いたいとしています。事業計画は今月末までには立て、平成元年度に実施することになっています。

また、これまで町民や町職員などから寄せられたアイデア・構想の中には、町づくりに大いに役立つものが多いことから、これらを「ふるさと創生」事業への提案としてのみならず、今後の町づくりの重要な資料として活用していくことにしています。

所得税の確定申告はお早目に！

確定申告をしなければ
ならない人

サラリーマンの所得税は、普通、

給料やボーナスをもらった時に源泉徴収で天引きされ、さらに十二月の年末調整で精算されますので、

確定申告の必要はありません。しかし、次のような場合などは、確定申告をする必要があります。

① 給与の年収が千五百万円を超える人。

② 給与所得や退職所得以外の所得金額の合計額が二十万円を超え

る人（株配当金、地代など）や、農業収入など事業収入のある人。

③ 給与の支払いを二か所以上か

ら受けている人。

確定申告をすれば

税金が戻ってくる人

確定申告をする必要のないサラリーマンでも、次のような場合などは、確定申告をすれば源泉徴収された所得税が戻ってきます。

① 地震、火災、風水害などの災害や盗難、横領などで住宅や家財に損害を受けたり、やむをえない

に損害を受けたり、やむをえない

支出をした場合。次のいずれか多いほうの金額が、雑損控除として所得金額から控除されます。（雑損控除）

A 損出額—所得金額の10%

B 損出額のうち災害関連支出の金額—5万円

② 病気やけがなどで多額の医療費を支払った場合、次の算式によって計算した金額が所得金額から控除されます（医療費控除）。

A 負担した医療費—63年中に支払った医療費の総額—保

険金などで補てんされる金額

増改築などをして、昭和六十三年

中に住んだ場合は、入居した年から五年間にわたり各年分の所得税から一定の額が控除されます（住宅取得等特別控除）。

④ 一定の要件にあてはまる①通勤費、②転任に伴う引越費用、③研修費、④資格取得費、⑤単身赴任者の帰宅旅費の合計額（特定支出の額）が給与所得控除額を超える場合、確定申告をすると、その

超える額が給与所得控除後の給与等の金額から控除されます（特定支出控除）。

20万円を超え、昭和六十三年

月	日	曜	午前（9時～11時）		午後（1時～3時）	
			自治会名	会場	自治会名	会場
2	6	月	黒沢・大台	黒沢会館	祝沢	祝沢会館
	7	火	須郷田	須郷田会館	新沢	新沢会館
	8	水	舟木・畑村・奥ヶ沢	舟木会館	板戸	板戸会館
	9	木	大琴(上・中)	高瀬館	宿	宿会館
	10	金	小倉	小倉児童館	大琴(下)・下吹	高瀬館
	13	月	野田・新処	克雪センター	中の沢・高村	小倉児童館
	14	火	横渡・蔵	大蔵館	十二の前・桂台	克雪センター
	15	水	高屋	高屋会館	岩館・蔵新田・宮の前	大蔵館
			沼	沼分校	土場沢	土場沢会館
	16	木	三税申告相談	有鄰館	杉森	杉森会館
			新町(1組～4組)	有鄰館	三税申告相談	有鄰館
	17	金	島・茂沢・寺田	役場	新町(5組～8組)	有鄰館
	20	月	横小路・下通	役場	湯出野・上里	役場
	21	火	家の下・下小路・宇戸坂	玉米支所	上通・中通	役場
	22	水	館合新田(上・中)	新田会館	館西・八日町・五海保	玉米支所
	23	木	松柴	松柴会館	館合新田(下・跡見坂)	新田会館
	27	月	大吹川・須郷	大吹川会館	山崎・久保	山崎会館
28	火	向田・智者鶴(松台除く)	向田会館	袖山	袖山会館	
3	1	水	地下の沢・葎沢	八塩館	泡の淵・松台	泡の淵会館
	2	木	石高	田代福祉館	黒淵	八塩館
	3	金	高戸屋・下小屋・時雨山	時雨山会館	田代	田代福祉館
	6	月	所得税	役場	所得税	役場
	7	火	〃	老方館	〃	老方館
	8	水	〃	有鄰館	〃	有鄰館
	9	木	〃	〃	〃	〃
	10	金	〃	〃	〃	〃

冬の寒さを吹き飛ばせ



ジャンケンで長い列をつくる「ジャンボ・スネークゲーム」



われを忘れて夢中になった「騎馬戦」

「雪ん子ふれ合いの集い」が一月十三日公民館前駐車場などを会場に行われ、雪の降る中大勢の子供たちが元気に汗を流しました。今年で四回を迎えたこの催しは、冬場家に閉じこもりがちな子供たちの体力を屋外で存分に発散させ、冬の寒さを吹き飛ばそうと町青少年健全育成町民会議らが主催したものです。

この日は数日続いた晴天が一転、久しぶりに冷たい雪がチラつく中、町内小学四年生以上中学二年まで三百五十人余りの児童・生徒が参加。ジャンケンで長い列をつくる「ジャンボ・スネークゲーム」や「騎馬戦」など楽しいふれ合いゲームをにぎやかに行いました。

暖冬でまわりの雪は少ないものの、久しぶりの雪で子供たちはおはしゃぎ。騎馬戦ではみんながわれを忘れて夢中になり、白熱した戦いが繰り広げられました。そして最後は例年の「箱ソリレース」にかわって「エッチラ・オッチラレース」。これは今から三十年前、冬の山仕事で使われた「エッチラ」と呼ばれるわらぐつをはいてバトンがわりにリレーでつなぐゲームで、昔の伝承風俗をしのび楽しんでもらおうと行われました。

参加した子供たちは元気な顔を紅潮させ、白い息をはきながらのびのびとゲームを楽しみ、冬の寒さを吹き飛ばしていました。

また午後からは、秋田市の人形劇団「たろんべ」の公演を観賞。劇団員が会場に飛び込んで大熱演するなど、子供たちは大喜びしながら残り少ない冬休みのひとときを楽しんでいました。

春を待つ93人

平成元年度新入学児童

平成元年度の新入学児童は、男56人、女37人の計93人です。

八塩小学校 29人

- | | | |
|-------------|-------------|-------------|
| 〈向田〉 佐藤 明美 | 〈石高〉 佐藤 幸貴 | 〈山崎〉 小松 貴博 |
| 佐藤 麻美 | 畠山 洋幸 | 〈久保〉 鈴木 正樹 |
| 〈黒淵〉 佐藤 敬幸 | 〈家の下〉 村上 慎悦 | 高橋 宏明 |
| 佐藤 勇樹 | 〈下小路〉 遠藤真由美 | 〈松柴〉 古関 彩子 |
| 〈泡の淵〉 横山 隆弘 | 小野 善幸 | 小松 俊也 |
| 〈地下の沢〉 高橋 学 | 小野 貴之 | 高橋 康浩 |
| 長谷山 亮 | 〈宇戸坂〉 佐藤 泰子 | 佐野 真一 |
| 〈田代〉 小松 真弓 | 佐藤 綾 | 高橋 定征 |
| 小松 亘 | 佐藤 沙代 | 〈須郷田〉 小松 純子 |
| 巖石 元氣 | 〈館西〉 佐藤 美杉 | |

高瀬小学校 42人

- | | | |
|------------|------------|------------|
| 〈新町〉 遠藤 良忠 | 〈祝沢〉 遠藤 志保 | 阿部 聡 |
| 金子 昌弘 | 〈上里〉 小野 裕司 | 阿部 寿史 |
| 工藤 寛之 | 小野 真季子 | 遠藤 晃人 |
| 小松 由佳 | 〈横渡〉 佐藤 彩子 | 〈新処〉 遠藤 貴恵 |
| 佐藤 雅隆 | 佐藤 彩子 | 〈桂台〉 遠藤 洋昌 |
| 〈上通〉 小松 裕介 | 杉野さおり | 遠藤 洋昌 |
| 谷口 真生 | 〈岩館〉 阿部真理子 | 〈小倉〉 阿部 直子 |
| 〈下通〉 佐藤 勝 | 阿部 明子 | 遠藤 吉保 |
| 高橋 大 | | 遠藤 大輔 |

第4回

雪ん子ふれ合いの集い



「エッチラ」と呼ばれるわらぐつをはいての「エッチラ・オッチラレース」



午後からは「たろんべ」の人形劇を観賞

東由利歴史散歩

文・畑山昭二(町史編纂室)

新処の はうしわけ 羽宇志別神社

珍しい円形の賽銭箱



新処にある羽宇志別神社

大化の改新から平安期ころの東由利に関する史料の中で、新処の羽宇志別神社に係わるいくつかの資料が残っています。

大森町八沢木の保呂羽山開基は、遠藤家文書(本莊市在住・重和氏所有)によると天平宝字元年(七五七年)とあるが、県史第一巻によると時代は少し下がるようです。延喜式の神名帳に出てくる「式内社」に、羽宇志別神社が記されていることから、平安期に入ってから創始されたようです。この神社は小社格で、秋田地方の式内社三座の一つです。

保呂羽山縁起によると、「大友・遠藤の両人が保呂羽山に入って初めて通夜した時、大友は角なる器、遠藤は円い器に飯を盛て神前に供えた。その時角鉢は大友(現八沢木別当)、丸鉢は法内村観行院(別当遠藤

重和氏の先祖)として由利一郡のお初穂を拝受する」とあります。この円い器の

「賽銭箱」は珍しいものです。当時は銭だけでなく、布地、米、雑穀など捧げられ、神社を守る上で大事なものであったようです。

新処の羽宇志別神社は、大己貴命、少名彦名命二柱を祀り、代々の領主から祭料として田地千刈(約一・二畝)を寄付されてきました。また保呂羽山の脇の羽黒派の修験として、金峰山という牛王(うしおう)を出し、保呂羽山参詣の宿坊としてにぎわったといわれます。



珍しい円形の賽銭箱

大琴小学校 22人

- | | | |
|-------|-------|--------|
| 遠藤 舞子 | 佐藤 力 | 小笠原悦子 |
| 畠山 雄太 | 阿部 秀人 | 遠藤沙誉子 |
| 畠山 明子 | 伊藤 涼平 | 遠藤 哲也 |
| (湯出野) | 遠藤 吉治 | (中の沢) |
| 小野めぐみ | 大庭 直美 | 工藤 勇輝 |
| 小松 春樹 | 須田 彰子 | (高村) |
| (寺田) | (蔵新田) | 伊東 貴雄 |
| 佐藤 幸恵 | 石渡佐希子 | |
| (大吹川) | (舟木) | (宿) |
| 畠山 春美 | 鈴木 弘和 | 遠藤 正直 |
| (袖山) | 長谷山智昭 | 小野 貴史 |
| 木嶋 未幸 | (高屋) | 小野 俊輔 |
| 鈴木久美子 | 小野ひろみ | 佐藤美喜子 |
| (大琴) | 小野 秀人 | 鈴木 宗幸 |
| 阿部 幸恵 | 小野 信弘 | (大台) |
| 梅津 真平 | (畑村) | 木島 明弘 |
| 遠藤 梓 | 斎藤 幸司 | (三ツ方森) |
| 佐々木栄幸 | 高橋 美和 | 猪股 晃成 |
| 鈴木 祐介 | | |

潤いを生活に充実感を



コミュニティづくりは 住民主体の町づくり

名古屋大学教養学部教授

中田 実

地域に何かを積み足そう

コミュニティ活動とは、地域にすでにあるものの中で、将来に引き継ぐべき貴重なもの—環境や行事活動など—を大切に維持しつつ、未来に生きるために必要な新しいものを、何か積み足していく活動です。何かを維持し、何を積み足すかの判断を住民自身が行う活動として、コミュニティづくりは住民主体のまちづくりであり、また「地域活性化」であるといえます。

どんな地域社会に住みたいか

こうした取り組みの出発点は、「どんな地域社会に住みたいか」という視点に立って地域を見直し、感じたりした希望や夢を住民の間で話題にし、



交流することです。常日ごろの雑談の中でも、こうした話題は無数に出されています。

コミュニティ活動のリーダーは、こうした話題に耳をとぎすまさせていて、共通のテーマになりそうな話題を取り上げては、より広く住民に議論してもらい、できるところから実践に移していくことが必要かと思えます。

将来を見越した活動を

現在、地域では生活環境（緑や騒音、路上駐車など）の問題の解決や、いっそうの改善（快適環境づくり）への関心や要望が強まっています。一軒に一本ずつアンズの木を植えようという小さな取り組みの結果として、その地域が春にはアンズの花が一面に咲きわたり「アンズの里」と呼ばれ

戦後の経済成長以来、わたしたちの人間関係の比重は、どちらかといえば「家庭」と「職場」に重点がおかれ、「地域」は二の次にされる傾向がありました。ところが、平均寿命が延び、労働時間の短縮が進むなかで、「地域社会」の人間関係が改めて見直されてきています。余暇時間や老後を生き生きと過ごすには、地域社会がその受け皿になる必要があるというのです。そこで、これからの地域社会はどうあるべきなのか、地域の将来に向けて何をすればいいのか—地域社会を活性化させるコミュニティ活動についてかんがえてみましょう。

るようになることもあります。

多用化している住民の声を生かし、小さなところからでも、将来を見越した活動を地道に積み足していきたいものです。そしてそれが多くの住民の活動となるとき、思いもかけない大きな力になる—コミュニティ活動の真価が発揮されるのです。

一人一人の構想を地域に生かす

住民側の発想だけでなく、行政の行う地域諸施策に参加していくことも、コミュニティづくりの重要な手がかりです。例えば、私の住んでいる地域の川の改修事業が進められようとしています。ここではコミュニティ活動の一つとしてこの問題を取り上げ、行政側の計画を聞き、他地区の川の改修事業を研究しています。そして、地元としての意見を出すとともに、改修後の川に錦鯉を放流しようとして、リサイクルの収益金の積立てを始めています。

一人一人のもついろんな構想が生かされ、地域に潤いを、生活に充足感をもたらすことができれば、こんな素晴らしいことはありませんね。

（なかた みのる・地域社会学）

コミュニティで地域に



仲間意識や連帯感 地域の財産

一人では解決できない問題を、みんなでも知恵や時間を出し合って解決していくのが、地域社会の「よさ」です。そして、そのから生まれる仲間意識や連帯感、かけがえない財産です。

ところが、経済が発展し都市化が進むにつれ、わたしたちは地域社会の中だけで、生活していくことが少なくなりました。「住まい」「生活の場」と「活動」「職場」とが離れてしまったのです。その結果、どちらかという職場の人間関係に重点がおかれ、地域住民同士の連帯感やだんだんと希薄になってしまいました。都市では、「隣の人の顔も知らない」ということも珍しくありません。

活動に取り入れたい 新しい要素

コミュニティ活動は、「自分たちの住む地域社会を、みんなの力でよくしていこう」というものです。ところが、「住まい」と「活動」が離れがちな現代の生活様式では、昔ながらの地域社会のあり方はマッチしません。そこで、これからの地域社会活動には、次のような新しい要素を取り入れていく必要があります。

★個人の能力が発揮できること

地域社会には、協力や連帯の名の下に、一人一人の個性が生かされず、むしろ、抑えこまれてしまう傾向が見られます。コミュニティ活動では、むしろ自分の得意なことを地域の発展や人々のために、積極的に役立てたいものです。そうすれば、活動を通じて楽しさや心のふれあいを感じたり、役目を果たしたときの充足感を味わったりすることができるようでしょう。

★自主性をもつこと

これまで、一人一人が自分の考えで地域社会に参加するというよりも、清掃活動のようにみんなが一斉に同じことをするような活動が一般的でした。しかしコミュニティ活動では、個人の自主性や主体性を尊重し、それを活動に生かすことが求められています。

★知らない人同士が協力しあえる
開放性があること

地域社会には、顔見知りは大歓迎ですが、それ以外の人にはあま

りかわらない、という傾向が見受けられます。とかく閉鎖的になりがちな地域社会ですが、知らない人や周辺地

生活のゆとりを地域に生かす

週休二日制の導入などで労働時間が短縮されてきた現在、わたしたちの生活には多少の「ゆとり」が生まれはじめました。そして、そのゆとりを地域社会で生かしていかうという気運が高まってきています。また人生八十年時代の高齢化社会を迎えた現在、お年寄りの間にも積極的に地域社会へ参加していかうという傾向が強まってきています。

地域のコミュニティ活動をもつと活発化させようという動きには、そのような背景があるのです。

生涯学習を

コミュニティ活動で

いま、「生涯学習」が注目を集めています。これは、「めまぐるしい社会の変化に対応していくために、また、より充実した人生を送るために、生涯にわたって自発的に学習していく」というものです。

地域の人たちとも協力し、活発な活動ができるような開放的の気風をつくりあげていきたいものです。

お年寄りにとって生きがいのある老後を送るためにも、地域で生涯学習を進めていく必要があります。例えば、子供とお年寄りの交流や「生活の知恵講座」などを開き、地域の人々が参加できるようにコミュニティづくりをしてはいかうでしょうか。

あなたのアイデアが 地域を変える

地域のコミュニティ活動は、行政から言われてやるといふものではなく、住民が主体となって行われるものです。ということは、コミュニティ活動には、個人が埋没してしまいがちな「管理社会」の中で、自分自身を取り戻し、自分が世の中に役立っていると実感できる、あるいは、生きがいを持つことができるといったメリットがあります。

また、行政と一体になって、地域社会を改善していくことで、行政に対する関心もより深いものとなるでしょう。

あなたのアイデアと行動力が地域をよりよく変えていく。コミュニティ活動は、子供たちの未来にも、大きな財産となるでしょう。



仲間意識や連帯感、地域の財産

話題いっぱい よちかどトピックス

県農近ゼミプロジェクト発表会

畠山さんに知事賞

地域に根ざした活動に高い評価

県農業近代化ゼミナールの昭和六十三年度プロジェクト発表会（県、県教委、県農近ゼミ連絡協議会共催）で、本町農業近代化ゼミナール副会長の畠山明弘さんが、優秀賞の知事賞を受賞しました。同発表会は一月二十日秋田市仁井田の県農業技術総合研修センターで開かれ、県内の農近ゼミ会員らが一年間のゼミ活動や学習、個人研究の成果などについて発表し合ったもので、プロジェクト発表、



知事賞を受賞した畠山さん(中)と発表を手伝った阿部栄市さん(左)小野会長(右)

演説発表、グループ活動発表等四部門に二十二人が参加しました。本町からはプロジェクト発表に会長の小野武志さん、グループ発表に副会長の畠山明弘さんが参加。農近ゼミ活動をふり返って」と題した畠山さんの発表が、栄えある知事賞に輝いたものです。畠山さんは、新潟県上越市などに視察研修に出かけたこと、「おはよう圃場」の収穫物を青空市場

で販売していること、産業文化祭でもちつきを行いゼミ活動のPRをしていることなどを発表すると共に、会員の減少、活動のマンネリ化などの問題点と、今後の課題などを発表。地域に根ざした活動が注目を浴び、評価されました。各部門知事賞受賞者は、三月に東京で開かれる「全国青年農業士大会」に出席することが決まっております。畠山さんも出席、発表することになっています。

「サインカード ありがとう」

高橋宏幸氏が高瀬小に
心こもったプレゼント

本町上通出身で「チロヌップのきつね」などの作者として全国的に知られる絵本作家・高橋宏幸氏（東京都在住・六五歳）から、高瀬小学校にきつねの絵が描かれたサインカード二百六枚と色紙十八枚が贈られ、始業式の一月十七日、全校児童、職員に手渡されました。高橋氏は昨年九月、同校創立五年記念式典に招かれた際、児童たちの心温まる歓迎ぶりに感銘。その感謝のしるしとして、多忙な身

にもかかわらず一枚一枚手書きでカードと色紙を完成させ、このほど同校PTA会長の長谷山誠明さんを通じて届けられたものです。昨年、記念式典で同氏が「これまで数多くの作品を生み出してこられたのは、生れ育った東由利の山や川などの情景が心の中にあつたから」と古里を絶賛しており、カードに書かれた文面は「うつくしい ふるさと」「ふるさと ぼんざい」「日本一のふるさと」と、



先生から1枚ずつカードを受け取る児童たち

いずれも児童たちに古里のありがたさを伝えるものばかりでした。始業式を終え、教室で担任の先生から一枚ずつカードを受け取った児童たちは、「絵がとてもきれいだ」「自分の宝物として大切にします」と大喜び。学年ごと、お礼の手紙を書くことにしています。大平校長は「職員にまで立派な色紙をいただき皆感激している。ご好意を大切に今後の教育に携わっていききたい」と話していました。

30余の凧が優美さ競う

第4回新春凧揚げ大会

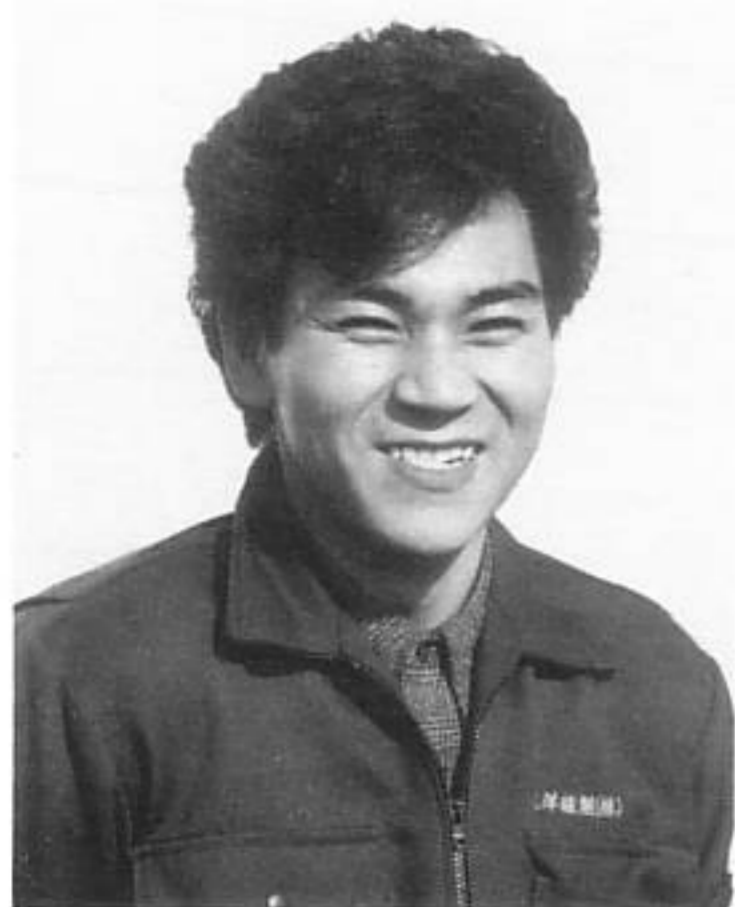
第四回新春凧揚げ大会が一月二十二日、大琴小学校前の水田で行われました。町凧同好会（石綿民喜会長）が本荘市と横手市の凧同好会の協力を得て開いたもので、町内のほか本荘市、横手市などから合わせて二十人余りが参加しました。競技では、凧が少し弱かったこともありましたが、津軽凧、本荘凧、連凧など三十個余りの凧が大空を舞い、優美さを競い



大琴小前水田で開かれた新春凧揚げ大会

ました。競技の結果は次の通りです。（敬称略）
〔団体賞〕横手市凧同好会、本荘市凧を愛する会（特別賞）木島賢一（大琴）、小野金子（同）（優秀賞）高橋良一（横手市）、熊谷敬治（同）、小松寅三（本荘市）、遠藤春雄（同）、佐々木定志（同）、石綿真紀（大琴小）、大庭大介（同）（努力賞）大琴小学校

ヤングレポート フレッシュマン



斉藤 俊和さん (22歳)
石高・東洋縫製(株)勤務

東洋縫製(株)に入社して間もない斉藤さんは22歳になったばかりのフレッシュマン。内職の集配など外回りの仕事が多く「会社の中の作業よりは変化があって楽しい」と、仕事への意欲をチラつかせています。自分の性格については「ネアカで、くよくよしないタイプ」と話し「何事にも我慢強い方です」ときっぱり。同社の佐野工場長は「まだ若いけれども責任感が強くてまじめ…」と評価しています。職場はほとんどが女性。「独身女性が一人もないのがさみしい。若くてかわいい人に入社してもらいたい」と本音をボツリ。浅野温子さん(女優)のようなユニークな性格の女性が理想で、「なるべく早く結婚して両親を安心させたい…」とも…。

東北電力が防犯 灯をプレゼント

町独自では63年度事業
で17基の取付けを完了



東北電力本荘営業篠原所長(右)から防犯灯の目録を受け取る佐藤収入役(左)

「防犯や交通事故防止に役立てて…」と、このほど東北電力本荘

営業所から水銀防犯灯二基が町にプレゼントされました。町ではすでに要望のある地区の中から選び、設置することになっています。このほか町の六十三年度事業で、智者鶴、高戸屋、宮の前(二カ所)、新処、沼、高瀬小前、土場沢、八日町、横山、松柴、寺田、祝沢(二カ所)、玉米農協バス停、館合新田、上通の十七カ所に、防犯(街路)灯の設置を完了しました。

「雪なし」でも開催

楽しいイベント満載の
「第5回大平雪まつり」

大平雪まつり(町主催・助活性化センター後援)が二月十八、十九日大平スキー場で開かれます。暖冬で雪がほとんどない状態ですが、今のところ雪の有無にかかわらず開催することになっています。ソリ製作会、撮影会、カップヌードル早食い大会、チビッコ大相撲大会、もちつき大会、花火大会などのほか、出店など、見て、食べての楽しい二日間。ぜひ来場を!



第4回大平雪まつりの「雪上トライアスロン」

東由利分署・防災ニュース

冬期の災害防止について

暖冬そして好天が続いていますが、一転してドカ雪に見舞われるなど気象の変化が予想されます。日頃から気象情報に十分注意し、地域・家族ぐるみで災害の未然防止に努めるようお願いします。

火災の予防▶風呂の空たきに注意する▶暖房器具への給油はお年寄りに任せない▶煙突やLPガスボンベは時々点検する。

雪下しの事故防止▶必ず二人以上で作業し命綱をつける▶長靴に縄を巻くなど滑らない工夫をする▶雪下しは早めに。

なだれの事故防止▶短期間の降雪は表層なだれや、春先には深層なだれとなり土石流と一緒に発生するので、特に山の傾斜地などに接近している住宅や、山仕事に従事する方は注意してください。

消防水利の確保▶消火栓、防火水槽、自然水利の除雪にご協力をお願いします。

まちかど スナップ



職場対抗家庭バレーボール大会

今年で17回を迎えた町商工会青年部主催の職場対抗家庭バレーボール大会が、1月22日健康増進センターで開かれ、12事業所から過去最高の14チームが参加しました。A・Bブロックに分かれた総当たり戦の結果、大沼組Bチームが3年連続して優勝を獲得。準優勝には佐藤食品が、第3位には株トーホクが入賞しました。この日会場には100人余りの選手のほか、家族など総勢200人を超す町民が詰め掛け、和気あいあいに、なごやかなひとときを過ごしました。

町民のみなさんの撮ったスナップ写真をお寄せください。掲載させていただいた場合には町特製のテレフォンカード(50度数)を進呈します。

み ん な の ひ ろ ば

この紙面は、みんなで作るページです。町民の交流の場としてどしどし参加してください。自薦、他薦どちらでも結構です。広報担当までお知らせください。

わたしの
お父さん、お母さん



わたしのおかあさんは やさしいです。
蔵・すだあきこさん(5さい)

伝承・昔の遊び 11

「落とし穴」づくり

中通・佐藤祐一さん(72歳)



吹雪の日でも、窓辺に日がさすと待っていたかのように外に出て、遊びまわった子供のころ…。中で



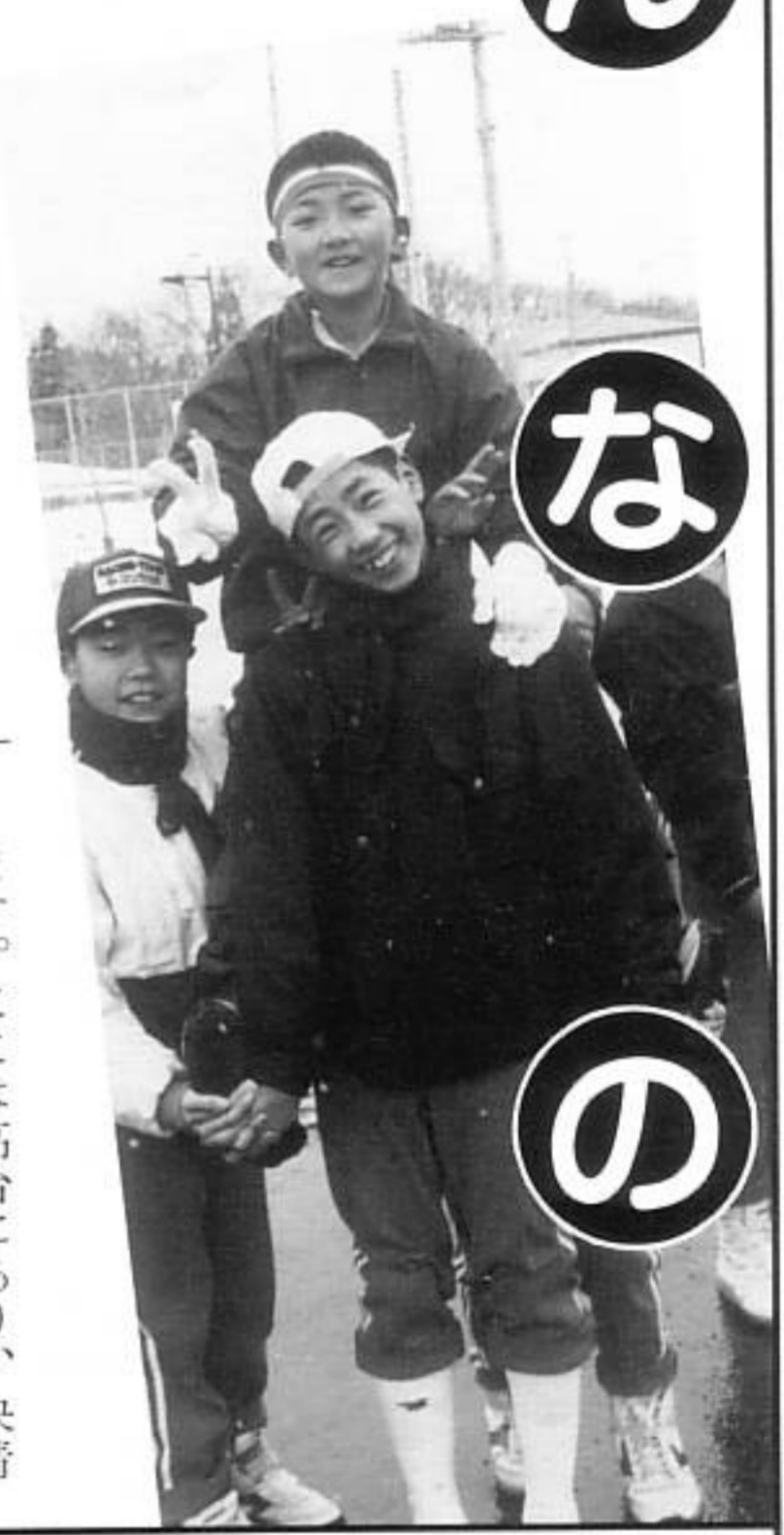
絵・石渡力造さん

ふるくことを想う 11
町の「自然の美」を永久に

横浜市左近山・島山了さん(袖山出身)



「広報ひがしゆり」で町の発展のようすを拝見し本當にうれしく思っております。元号も平成と変わりがお過ぎでしょうか。私は現在、横浜の中心部に位置する旭区の左近山団地に住んでお



も軒端や遊び場での「落とし穴」づくりは楽しいものでした。しかし、正月に年始まわりに出かけた父が穴に落ちてしまい、大目玉をいただいたこともあるなど、「落とし穴」づくりには苦しい思い出もあります。夕方になると、どの子も前かけや着物の裾が凍りつき、ゴワゴワさせながら帰ったものでした。遠い遠い昔のことです。

ります。ここは高台にあり、快晴の時には部屋の窓から富士山が望める、大変美しいところ。しかし、昨年の春と秋に東由利町に帰り、本當の「自然の美」といったものを感じました。「ワラビ」「タケノコ」「ゼンマイ」「サシ」「ヤマウド」…これら都会で味わうことのできない田舎の味を、思う存分楽しみました。今日、日本の自然が減っていくなか、東由利町だけでなく全国の自然を守ろうとする気持ちを大切に、子供たちに伝え「美しい国・日本」「美しい町・東由利町」を永久のものとすることを願っている一人です。

ものしり家庭版 知っていると便利、くらしの豆知識 11

冬の布団干し

日中干してフカフカに膨らんだ暖かい布団で寝るのは、とても気持ちのよいものです。湿気を取り綿の弾力を回復させるのが布団干しの目的で、特に冬はこまめに干したいもの。とはいえ、いくらお天気でも前日雨が降したら、湿気が多いので適しません。時間帯としては午前十時ごろから午後二時ごろまでが適し、それ以外は空気が湿っていたり冷え込んだりするので不適。敷き布団は裏表二時間ずつ、掛け布団は表側は太陽光線で色あせたり傷んだりする

ので、裏側だけ二時間も干せば十分。長時間干すと繊維がもろくなり、布が変色したりします。その点、シーツを掛けたまま干せば、色あせの予防やチリよけにもなります。また、羊毛布団や羽毛布団を干すときは、風通しの良い場所で陰干しをします。布団たたきで干した布団をたたくのは、膨らんだ布団をべちやんこにするようなもの。強くたたくと綿の繊維が切れ、弾力もなくなりやすくなります。ブラシでチリやホコリを落としたり、掃除機で吸い取ったりするのが効果的。干した布団の裏返しは、物干しざおを二本使えば楽です。

健康ライフ

成人病の「火の用心」

指導・小松医院・小松良竹先生



成人病予防は栄養、運動、休養など生活習慣の見直しが大切です。これを成人病の「一次予防」といい、火災予防にたとえれば「火の用心」です。それでも成人病にかかってしまうことがあり、そのときに症状が悪化し手遅れになっては大変です。定期的な検診で健康を確認するとともに、疑わしい症状があるときは専門医の診察を受けることが大切です。これが「二次予防」で、火事でいえば「初期消火」にあたります。日ごろのチェックと定期検診は欠かせない。



子からホンネ本音親から



大琴小四年・阿部忍くん

ぼくのお父さんは、おこるととてもこわいんです。でも勉強を教えてください、ときどき遊んでくれるので好きです。でも、妹みたいな、ぼくももっとやさしくしてほしいです。それから、ファミコンのカセットを買ってください。お父さんは、「東光苑」ではたっているのです、夕方にかけていて、朝つかれて帰ってくる時もあります。これからも、からだに気をつけて、がんばってほしいと思います。



大琴・阿部市男さん

犬のさんぼは、毎日欠かさずやっているように、かんしんしています。でも、妹をいじめるのはよくないことです。おこられないように、なかよくしてください。それから、おにいさんは今度中学三年生です。高校に入るじゅんぴの勉強があるので、お兄さんにはじやましないようにしてください。

インチキ内職

うますぎる話にはご用心



「簡単な作業で高収入が得られるとか「副業にピッタリ」といった広告につられてその気になり、いざ始めてみると、材料費などの名目で高額なお金を取られたりする「インチキ内職」の被害に遭うケースが後を絶ちません。

「インチキ内職」には、例えば次のようなものがあります。

◆「内職をするためには講習を受ける必要がある」と言っている高い受講料を納めさせる。さらに、頼んだ仕事にいろいろな条件をつけて

「買いたたくほか、「出来があまりよくない」などと仕上がり具合を問題にし、買上げを拒否する。

◆「高額の工賃収入が得られるからと誇大に宣伝し、そのための機械を市価の二倍ぐらいの値段で売りつける。そのうえ、肝心な工賃の取り決めについては、あいまいな態度をとる。

◆「自宅で簡単にできる」とマイコンやワープロを売りつけたり、習わせたりして、講習料を取る。

歩合性で支払われることがある。また、後で「返還するから」と担保を取り、内職をやめてもなかなか返そうとしない。

◆「自宅で簡単にできる」とマイコンやワープロを売りつけたり、習わせたりして、講習料を取る。

◆「自宅で簡単にできる」とマイコンやワープロを売りつけたり、習わせたりして、講習料を取る。

みんなの健康

安全で効果的ですよ！ 歩く健康法に注目！

最近、歩くことが少なく、また仕事や家事でからだを動かす機会も少なくなっており、その動かさずがたまって疲労を生み、肥満、不眠、イライラ、足腰のだるさ、肩こり、視力低下、食欲不振などの半健康症状に陥る結果となつてはいないでしょうか。

これらの運動不足からくる弊害は、成人病への「近道」をつくり、さらには内臓機能の低下をもたらします。



しかし、誰もが運動不足を嘆きながら、いざ実践となると、なかなかおっくうなものです。とくに、寒い冬は家の中にとじこもりがち。そこで、誰にでもできる運動として「歩く健康法」が注目されています。自分のペースを保てるうえ、足にかかる負担も体重の1/4程度（ジョギングの1/4）で安全です。一日最低二十分以上、一万歩を目ざしましょう。

もうこうなったらあなたの「ヤル気」一つにかかっていますよ！！
(保健婦・小松友子)

東由利の文芸

ゆりかご句会新年句会から

◆ひと炊きを頼む余寒のしまい風呂
小野貞子(蔵新田)

◆初春や赤きお椀に昔あり
遠藤モトミ(新処)

◆余寒なお土橋をくぐる水細く
菊地常作(湯出野)

◆初春や地図をひろげて旅の夢
小笠原トミ(蔵新田)

◆初春の鬘に結びし紅鹿の子
小松メサ子(下小路)

◆母の咳更けて余寒の壁に沁む
鈴木要(沼)

「初孫です」はお休みします。

新春将棋大会結果

一月三日・老方地区コミュニティセンター「老方館」会場・十一人参加

◆優勝 小野裕明さん(宿)

◆準優勝 鈴木正文さん(西目町)

◆第三位 阿部 力さん(本莊市)

新春囲碁大会結果

一月十五日・役場日本間会場・九人参加

◆優勝 阿部弘章さん(蔵)

◆準優勝 佐藤 謙さん(館西)

◆第三位 小松佳和さん(田代)



郷土の野草

文・写真 小松忠正

47

オミナエシ

(オミナエシ科)

別名を「オミナメシ」ともい、山や野原に普通に見られる多年草で、秋の七草の一つです。八月十日ごろ米粒のような小さい黄色の花を傘が開いたような形(散形状)につけます。茎は一メートル以上にも伸び、葉は対生で羽状に分裂します。最近この花もあまり見られなくなり、白花の「オトコエシ」が多く目につくようになりまし(写真は須郷で)。根に利尿、解毒、はれものに利く成分オレアノール酸を含んでいます。

善意

町社会福祉協議会に木島久成さん(岩館)、佐々木久毅さん(中通)、今野秀和さん(新町)、商工会婦人部から金一封のご芳志がありました。なお、先月号で小松建一さん(寺田)とあるのは、(山崎)の誤りでした。おわびして訂正します。



町民カレンダー

第二回町民室内綱引き大会が二月五日午前九時から健康増進センターで開かれます。昨年は男女合わせて十八チームが参加し、力のこもったプレーを展開。男子は新町、女子は横小路が優勝しました。ぜひご来場の上ご声援下さい。

戸籍だより

(12月1日届出・敬称略)

お誕生おめでとう

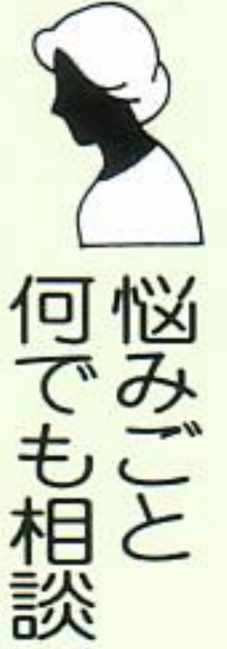
- 121 小野 吹雪(常男・長女)上里
- 122 佐藤 秀幸(秀夫・二男)新町
- 123 佐藤 輝(宏・長男)時雨山
- 124 小野 史聖(浩美・長女)高屋
- 125 遠藤 裕二(三之・二男)横渡
- 126 小野 武志(館合新田)
- 127 小野 文子(蔵新田)

ごめい福をお祈りします

- 128 佐々木金蔵(82・キヨエ・夫)中通
- 129 鈴木 國雄(67・功一・父)杉森
- 130 今野 ヒデ(76・秀和・義祖母)新町
- 131 遠藤ヨシコ(57・俊一郎・母)中通
- 132 高橋 興吉(71・典一・父)畑村
- 133 阿部イワミ(87・清治・母)蔵新田

町民の声を町政に！ 町長の面会日今月は20日

- 22 蔵法内地区分班長会議(9時30分)
- 23 機能訓練教室(有隣館13時)
- 27 農業簿記記帳指導会(有隣館10時)
- 28 畜産経営講演会(有隣館9時30分)



悩みごと何でも相談

【相談】私は女なのに男のような名前なので、子供の頃から恥かしい嫌な思いをしてきました。つけた父も亡くなったので、名を変えたいがどうしたらいいでしょうか。
【対応】名はその人を表わす具体的な記号ですから、本人の自由意志だけで変えることは許されていません。やむを得ない理由(あなたの場合はそれに当たるかもしれない)がある場合に家庭裁判所へ「名の変更許可を求める審判申立」をし、裁判所で認められれば、審判書をつけて「名の変更届」を役場に出せばいいのです。(町心配ごと相談所)

編集室から

▼またミス…。新年号トップ面で、収入役・佐藤謙を「佐○謙」と「藤」を脱字してしまった(収入役さんごめんさい)。ミス発覚後自治会長さん宅へ修正に歩き回ったが、一部地域は脱字のまま配布になってしまったことを深くおわびします。(町長にこっぴどくごしゃがれだ)
▼一、二月は新年度予算の編成期。財政担当は休日返上、徹夜で作業に当たっている。広報は今年度並の予算が認められそう。▼広報紙送付謝礼としてこれまで次の方々からお金が届いています。この欄を借りてお礼申し上げます。▼高橋賢文さん(一万円・埼玉県)▼山安治郎さん(二万円・仙台市)▼小松一雄さん(二万円・東京都)

1月★町のミニ統計

- 人口()は前月比
- 男 2,935人(△3)
- 女 3,047人(△3)
- 計 5,982人(△6)
- 世帯数1,439戸(△1)
- ()は1月からの累計
- 出生7人(55)
- 死亡8人(57)

- 転入1人(91)
- 転出7人(180)
- 結婚1組(18)
- 離婚0人(1)
- 火災0件(3)
- 救急車出動6件(83)
- ごみ処理量42t(363)
- 交通事故1件(14)
- 死者0人(0)
- 傷者2人(20)
- 飲酒運転0人(1)
- 酒気帯び0人(3)

- 3 老方地区栄養改善講習(老方館9時30分)
- 5 第2回町民室内綱引き大会(健康増進センター9時)
- 7 住吉地区分班長会議(住吉会館9時30分)
- 10 老方地区分班長会議(老方館)

- 9 9時30分
- 13 蔵地区栄養改善講習(大蔵館9時30分)
- 16 心配ごと相談所(朋楽荘13時)
- 17 2歳児検診(有隣館13時)
- 18 19 大平雪まつり(スキー場)
- 20 健康大学(有隣館13時)

- 22 蔵法内地区分班長会議(9時30分)
- 23 機能訓練教室(有隣館13時)
- 27 農業簿記記帳指導会(有隣館10時)
- 28 畜産経営講演会(有隣館9時30分)

町民カレンダー